

- 2.患者向けアンケート調査について
- 3.平成19年度の事業計画について

**平成19年度**

【第1回作業部会】平成19年6月27日

- 1.患者向けアンケート調査について
- 2.共通診療ノートの改訂について

**(3)モデル事業の実施前後の分娩状況等の主な変化**

**①モデル事業の登録施設数及び総分娩数の推移**

		オープン・セミオープン病院		オープンシステム				セミオープンシステム			
				登録診療所		登録助産所		登録診療所		登録助産所	
		施設数	総分娩数	施設数	総分娩数	施設数	総分娩数	施設数	総分娩数	施設数	総分娩数
実施前:	H16年度	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
事業後	H17年度	6	4124	0	0	0	0	31	835	0	0
	H18年度	6	4503	0	0	0	0	31	—	0	0
	H19年度	6	4036	0	0	0	0	31	—	0	0

(平成19年度総分娩数は12月までの数)

**②オープンシステムを利用した分娩数**

		登録診療所医師が立ち会った分娩数(①)	登録助産所助産師が立ち会った分娩数(②)	オープンシステムによる分娩数の計(①+②)
実施前:	H16年度	...	...	...
事業後	H17年度	...	...	...
	H18年※1	...	...	...
	H19年※2	...	...	...

**③セミオープンシステムを利用した分娩数**

		登録診療所からの紹介による分娩数(①)	登録助産所からの紹介による分娩数(②)	セミオープンシステムによる分娩数の計(①+②)
実施前:	H16年度	...	...	...
事業後	H17年度	204	0	204
	H18年度	732	0	732
	H19年度	1513	0	1513

#### ④オープン・セミオープン病院からの診療所・助産所への逆紹介件数

		病院から診療所への逆紹介件数	病院から助産所への逆紹介件数
実施前：H16年度		…	…
事業後	H17年度	…	…
	H18年度	…	…
	H19年度	…	…

#### (4) 本事業を実施する上で工夫した点

- 分娩施設を複数とし、共通のプロトコールでシステムを運用した。
- マニュアル、クリティカルパスの作成。
- 共通診療ノートを作成。

### 2 周産期医療施設オープン病院化における成果及び課題

#### 1) モデル事業における成果

- 分娩施設が減少する中で、市民のお産の場を確保し、勤務医の負担軽減を図ることができた。

#### 2) モデル事業における主な課題

- 患者さんは健診施設でと分娩施設の2施設で初診料が発生すること。
- 分娩施設によってセミオープンシステムの比率に大きな差があること。(病院ごとの取り扱う患者の内容に差があること。立地条件など。)

#### 3) セミオープンの地域における今後のオープン病院化に向けての課題

- オープン化は検討していない。  
理由)・産婦人科医の絶対数が少なく、健診施設の医師が分娩に立ち会う余裕がない。  
・分娩施設においては安全性の確保や責任の明確化などクリアすべき課題が多い。

#### 4) 今後の方向性

- 仙台市内はほぼシステムが完成。県内の他の地域でのセミオープンシステム導入に向けての検討をしている。(県北地域)

### 3 オープン病院化推進のための国への提言

- 地域の事情に合わせたシステム作りへの助成。
- 産科医師を養成・確保するための実効性のある対策を早急に講じていただきたい。

(参考)

宮城県周産期医療施設オープン病院化連絡協議会委員名簿

区分	氏名	役職名等	備考
周産期医療関係	谷川原 真吾	仙台赤十字病院 第一産婦人科部長	委員長
	上原 茂樹	東北公済病院 産婦人科科長	副委員長
	村上 節	東北大学医学部 周産期医学分野助教授	
	千坂 泰	東北大学病院 産科助手	
	和田 裕一	仙台医療センター 産婦人科医長	
	明城 光三	仙台医療センター 産婦人科医長	
	渡辺 孝紀	仙台市立病院 産婦人科部長	
	小澤 信義	NTT 東日本東北病院 産婦人科部長	
	鬼怒川 博久	仙台産婦人科医会 顧問	
	森 俊彦	森ウィメンズクリニック 院長	
	濱崎 洋一	はまぎきウィメンズクリニック 院長	
	松永 弦	松永女性クリニック 院長	
	豊島 紀代子	東北公済病院 7階南病棟師長	
	佐藤 貞子	仙台赤十字病院 4階B病棟師長	
学識経験者	岡村 州博	東北大学医学部 周産期医学分野教授	
宮城県	佐々木 淳	宮城県保健福祉部医療整備課長	